

～臨床情報・検体の研究利用に関するお知らせ～

研究課題名:『転倒転落事象の発生確率低減に寄与する看護介入の検討

～統計的因果推論を用いた確率予測モデルの構築～』

研究機関名:東邦大学医療センター大森病院

研究責任者:医療安全管理部 職位・氏名:看護師長補佐・古澤圭杏

【研究の目的】

本研究では、電子カルテに蓄積されたデータを用いて、転倒転落事象の確率予測モデルを構築し、そのモデルを用いて看護介入の効果を可視化することを目的としています。

この研究で得られる成果:既存の電子カルテデータを用いることによって転倒転落事象に対する介入の評価手法が確立すれば、転倒転落事象の介入に関する研究が大きく進展することが期待されます。また、介入の根拠が明らかになれば、急性期医療現場だけでなく、看護・介護者が少ない在宅療養への応用も可能となります。

【研究対象および方法】

この研究は、国立国際医療研究センター倫理審査委員会の承認を得て実施するものです。

・対象者:2011年4月～2021年3月までに東邦大学医療センター大森病院に入院した患者さん約200,000人を対象とします。

・方法:診療録(カルテ)から抽出したデータについて、機械学習(AI:人工知能)を用いて分析します。

【不参加のお申し出期間】

なお、該当される方のうち、カルテ情報の利用に同意されない場合は、研究不参加とさせていただきますので、2022年12月31日までに、下記のお問い合わせ先にお申し出ください。お申し出になられても、いかなる不利益も受けることはありません。

【研究期間】

倫理審査委員会承認後～2030年3月31日

【研究に用いられる資料・情報】

本研究では、性別、年代、入院年月、病名、診断開始日、診断終了日、手術日、術式、重症度、医療・看護必要度、転倒転落事象に関するインシデントレポートの転倒転落事象の項目(転倒または、転落)、レベル、発生日、バイタルサイン(体温、脈拍、呼吸数、血圧、SpO₂、意識レベル、せん妄の有無などの熱型表データ)、看護介入の種類と実施日、転倒転落アセスメントツールの評価の実施日、点数、危険度、区分(入院当日、転倒転落事故発生時)、アセスメント項目を用いますが、すぐに患者さんを特定できるような情報は使いません。

【外部への情報の提供】

外部への情報提供は行いません

【利益相反について】

利益相反の状況については NCGM 利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受け

て適切に管理します。本研究に関する研究全体および研究者個人として申告すべき利益相反の状態はありません。

【研究計画書等の入手・閲覧方法・手続き等】

あなたのご希望により、この研究に参加してくださった方々の個人情報の保護や、この研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究の計画書や研究の方法に関する資料をご覧いただくことや文書でお渡しすることができます。ご希望される方は、どうぞ記載のお問合せ先にお申し出ください。

【個人情報について】

研究に利用する情報は、患者さんのお名前、住所など、個人を特定できる個人情報は削除して管理します。また、今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できるような情報を利用することはありません。

診療情報等を研究に利用することを承諾されない方(あるいは代諾者の方)は、下記までご連絡下さい。その場合でも、患者さんに不利益になることはありません。

【個人情報の開示に係る手続きについて】

本研究で収集させて頂いたご自身の情報は東邦大学医療センター大森病院の規定に則った形でご覧頂くことも出来ます。

ご希望される方は、どうぞ記載のお問合せ先にお申し出ください。

【研究成果の公表】

本研究の成果は研究者(古澤圭壺)の特別研究論文(博士論文)としてまとめ、国立看護大学校および独立行政法人大学改革支援・学位授与機構の博士学位審査に提出するとともに、関連学会に発表・論文投稿して社会還元を行います。

【研究組織】

代表施設名: 国立看護大学校 研究代表者: 小澤 三枝子 役職: 教授

研究分担者: 柏木 公一 役職: 准教授

機関名: 東邦大学医療センター大森病院 研究責任者: 古澤圭壺 役職: 看護師長補佐

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大森病院 医療安全管理部

職位・氏名 看護師長補佐・古澤圭壺

電話 03-3762-4151 内線 3571